

# FLORA KANAGAWA

神奈川県植物誌調査会 ニュース 第21号 DEC.15.1985

231 横浜市中区南仲通 5-60

神奈川県立博物館内

神奈川県植物誌調査会(振替 3-10195)

TEL. 045-201-0926

## No.21



トダイアカバナ (Epilobium formosanum Masamune)

丹沢塩水川にて Sep. 8.1985

## ● トダイアカバナ

丹沢の植物相は、赤石山系の低いところと似ているところがあって、アカイシコウゾリナ、イワシャジンのような共通種がある。トダイアカバナもその一つの例であろう。トダイアカバナは、その名前のとおり、赤石山系北部の戸台川の河原にアカイシコウゾリナやフジアザミとともに生えているが、ほかの川ではそれほど普通のものではない。また遠く離れて、紀伊半島の熊野川、広島三段峡、四国の高い山や、台湾の山地にも知られている。私は1962年にこれを丹沢の塩水川の上流で採集した

ことがあった(植物研究雑誌 40:22)。本年9月8日に植物誌調査会の重点調査で、塩水の谷にはいったとき、このトダイアカバナが健在であることを確認できた。谷は意外に荒れていたが、個体数はかなりおよかった。冠毛で種子が風に飛ぶ本種の場合、なぜこのように分布が限られているのか、よくわからない。あるいは丹沢の谷をもっと注意深く探してみれば、ほかにも見いだせるのだろうか。トダイアカバナは、葉が細いので、ほかのアカバナ類との区別は容易である。(大場達之)

## ● 綾瀬市のイチリンソウとニリンソウ

### 1. イチリンソウ *Anemone nikoensis* Maxim.

60年4月7日、植物開花調査（神奈川の春はどこからくるか）のため小雨降る中を市内一巡した折り、早川地区の大群落を偶然発見した。今までに吉岡、中村地区で観察しているものの、その群落の大きさは比較にならない程、大きなものである。普段、農家の人々が利用するだけの裏山につながる小路のため往来も少なく、屋敷に近いこともあって、自然状態で繁殖し続けたのだろう。その数は1000本以上と思われる。この時は、開花には時期まだ早く、クサボケ・ヤマブキ・キブシ・モミジイチゴ・ヤマザクラ・アケビ・クロモジ・フキ・ヒメウズ・カキドオシなどの開花状況調査のため観察は打ち切った。4月29日、再び訪れた時は丁度満開で見事であった。イチリンソウは春3月に芽生え、6月には枯れてしまう生育期間の短い宿根草である。はや、クリ林の林床にはフキ・ミズヒキ・ヤエムグラが優占的に繁茂しだしていた。

### 2. ニリンソウ *Anemone flaccida* Fr. Schm.

林縁や林床、土手などに群生する多年草である。イチリンソウよりも開花が早く、草丈もひとまわり小さいがこの群生が一度に開花するとそれは素晴らしい花園である。以前、松田町寄りで大群落に接したことがある。しかし、綾瀬では早川地区の農家の庭先の土手に小群落を見るのみで花数も少なく、やっと生きながらえているような感がする。  
(秋山 守)



1. イチリンソウ、 2. ニリンソウ

### イチリンソウとニリンソウの特徴

|            | イチリンソウ               | ニリンソウ                       |
|------------|----------------------|-----------------------------|
| 高さ         | 20-40cm              | 20-30cm                     |
| 根生葉        | 2回3出複葉               | 3出複葉                        |
| 総ほう葉       | 3枚が、輪生。有柄            | 3枚が輪生。無柄                    |
| 花<br>(がく片) | 花柄1-2個。花径約4cm。花弁状で5枚 | 花柄1-3個。花径1.5-2.5mm。花弁状で5-7枚 |
| 花色         | 白色                   | 白色                          |
| 地下茎        | 多肉質で横にはう             | 太くて短い                       |
| 花期         | 4-5月                 | 3-5月                        |

## ● オカタイトゴメ

最近あちこちでタイトゴメを小さくしたような植物が道ばたなどに帰化している。最初に気が付いたのは1981年5月、調査会の合同調査で三浦半島の二子山に行ったとき、逗子の長柄橋の道ばたでみたのが始めであるが、最近横浜のあちこちで採集されている。これの名前がなかなか、つきとめられなかったので、仮にオカタイトゴメと称していた。今年、ある席で進化生物研究所の湯淺

浩史先生におめにかかった折りに、お教をこうたところ一昔から”ひめこまつ”という名前で園芸家が根占などにつかっていたもので、形態および染色体などはタイトゴメに非常に近いものである。中国あたりに自生地がありそうな気もするが、まだ不明で、学名も定めかねている一とのことであった。当分のあいだオカタイトゴメと呼んでおきたい。  
(大場達之)

## ● 大和市の植物概況 (2)

調査を始めて3年目になるが、約760種類の植物が採集できたので、少し分布の特色といったことに就いてふれてみたい。それにはまず、大和市の地勢について簡単に述べる。大和市は相模平野の中程に位置し、南北9.79km、東西3.22kmの細長い形をしており、海拔は90m~30mで北から南に向かって低くなっているが、全般的に平坦な地形である。市の西側を流れる引地川と東境を流れる境川が狭い氾濫原を作り、台地との間に約20mの段丘崖がある。台地上は住宅地、工場地が多く、畑地は下鶴間町内山新開・公所・山谷・山王原・深見町一の関、上草柳町緑野・幅路、上和田町久田原・宮久保、福田町中福田、下和田町中原・下原などで野菜や果樹の栽培がおこなわれている。水田は、引地川下流の福田町と境川沿いに深見町一の関・島津、下和田町竹の鼻などにあるが面積は狭い。相模野の面影を残す林地は本誌No.18で述べた12個所にもう一個所、福田町みどりが丘幼稚園付近を加えたい。それと段丘崖、市指定の保存樹林であるが、最近はこの段丘崖にも、また指定期限の切れた保存樹林にも宅地化の波が押し寄せてきている。このような状況であるので、台地上は草原の名残りらしい所は見られるにしても、草原らしい草原は一個所も見あたらない。

市内を流れる主な川は引く地川と境川であるが、いずれもコンクリートで固められた護岸工事が施され、わずかに引地川の上流の水源地とそれに続く調整池、境川の支流にあたる旧境川、自然湧水のある上和田町谷戸・中原などに湿地らしいものが残っているが、調整池のほうは246号道路のバイパス工事によって水源を絶たれ、上和田町のほうは家庭廃水の混入により破壊が進んでいる。

以上のような状況であるから、市内に生育する植物もおのずから限定される。そこで分布の特色ということになると、草原の雑草、水田の雑草、畑地の雑草、河原の雑草、湿地の植物などはあまり見るべきものはなく、森林(割合湿気が多い)の植物が中心になり、それに市街地にはびこる帰化植物が主なものになるということになる。そのなかで特に目につくことは、園芸植物で逸出して野生化したものや市民が野外に植えたと思われるもの、または林の中に捨てたと思われるものが多いことである。例えば、イチヨウ・コウヨウザン・チュウコバンソウ・ハトムギ・オカメザサ・サトイモ・ムラサキツユクサ・ラッキョウ・ハナニラ・コバギボウシ・ナギイカダ・タマスダレ・キシヨウブ・バショウ・ヒメヒオウギズイセン・マグワ・オオケタデ・オシロイバナ・マツバボタン・ツルムラサキ・ムシトリナデシコ・ヒイラギナンテン・ハクモクレン・フウチョウソウ・セイヨウカラシナ・アブラナ・ショカツサイ・キリンソウ・ガクアジサイ

・アジサイ・スモモ・ソメイヨシノ・トキワサンザシ・カジイチゴ・ニワナナカマド・ユキヤナギ・サイカチ・ハリエンジュ・マサキ・トウカエデ・フウセンカズラ・ホウセンカ・トロロアオイ・アオギリ・モッコク・ビョウヤナギ・ミソハギ・マツヨイグサ・ツキミソウ・オオムラサキ・カキノキ・ハクウンボク・シナレンギョウ・チョウセンレンギョウ・トウネズミモチ・クサキョウチクトウ・シバザクラ・マルバルコウソウ・ルコウソウ・ヒレハリソウ・ビジョザクラ・ハナトラノオ・タマサンゴ・キリ・ハナウリクサ・サンゴジュ・マクワウリ・フランスギク・キク・ハルシャギク・ツワブキなどあげることができる。

次に他地域にくらべて比較的によく見られるものを若干あげてみると、フユノハナワラビ・ミドリヒメワラビ・シラカシ・ムクノキ・エノキ・ヤマグワ・ヤブマオ・アオミズ・ミズヒキ・ハナタデ・コブシ・シロダモ・ドクダミ・タマアジサイ・フジカンゾウ・ツルウメモドキ・ウマノミツバ・エゴノキ・ムラサキシキブ・ニガクサ・ハエドクソウ・ガマズミ・オトコエシ・シロヨメナ・コセンダングサ・ホソバガクビソウ・タイアザミ・タカサブロウ・ヒヨドリバナ・チチコグサモドキ・ウバユリ・オオバジャノヒゲ・ホトトギス・ヤブカンゾウ(境川土手)・キツネノカミソリ・アブラススキ・チガヤ・イヌアワ・ナキリスゲ・ウラシマソウ・ヤブミョウガ・ネジバナなどがあげられる。

今年度新たに採集できた植物は19種類あるが、その中でニュースになるものは、アワゴケ(アワゴケ科)とフッキソウ(ツゲ科)であろう。フッキソウについては昨年平松義尚先生からアドバイスがあり、4月19日西鶴間三丁目にある林の中を探し歩いて見つけた。丁度白い花(雄花)をつけており、5m平方ほどのみごとな群落でフッキソウの毛せんを敷いたように広がっていた。ここは住宅地域の間にあるので、いずれは消え去る運命か。アワゴケは7月22日福田町で神明社に登って行く日陰の湿った道路の端にコケに混ざって地面に張り付いていたような形になってはえていた。丁度軍配形の果実がついていた。フッキソウもアワゴケも大和市内ではここだけにしかないようである。

大和市に産すると思われるが現在まだ採集できないものがいくつかあるので、次にあげ、ご協力を願うことにします。イノモトソウ・ミサキカグマ・オオベニシダ・オオイタチシダ・ヒメワラビ・オニウシノケグサ・ムツオレグサ・イチゴツナギ・ツルスズメノカタビラ・コツブキンエノコロ・メダケ・ホンモンジスゲ・マツバイ・オオバノトンボソウ・ヤマハンノキ・アカシデ・ワダソ

ウ・ヤブニッケイ・ダンコウバイ・クサノオウ・ヤブザクラ・テリハノイバラ・ヤブハギ・クサフジ・スズメノエンドウ・アメリカフウロ・ニシキソウ・ナツトウダイ・ツリバナ・ケンボナシ・アカネスミレ・ツルグミ・アカバナ・ギンリョウソウ・オオトラノオ・オドリコソウ・ヒメシジミ・ウツボグサ・アメリカアゼナ・イヌノフグリ・ヨツバムグラ・スズメウリ・ホウキギク・ガンクビソウ

〔訂正〕本誌N0.18大和市の植物概況の記事中、ホシアサガオは標本を再見の結果マルバルコウソウの葉が3裂したものであるとされるので訂正します。

最後に、未知の大和市の調査に当たっていろいろご教示くださった下和田町の大笹悦子氏並びに標本の同定をお願いした伊藤洋氏、林弥栄氏に深く感謝します。

(武井 尚)

## ● 海老名のサガミラン

昭和59年2月、市内の伊勢山自然公園が開園され、そこでマヤランらしき立ち枯れた株を6-7個見つけた。その地下茎の様子からマヤランと同定されたが、その後、追跡調査を重ね、同年7月、開花した様子を観察すると、マヤランの花弁の特徴である、白色に紅紫色の斑紋があるという点が異なり、5-6本、ヒョロヒョロ伸びた茎につく花は、いずれも緑白色で、白いカビのようなものが付着していた。60年7月末に同じように開花したので、有馬高校の諏訪哲夫先生に見て頂いたところ、同種はマヤランではなく、サガミランであること、白いカビのようなものは、アオバハゴロモ(半目アオバハゴロモ科)の幼虫であることが判明した。写真を撮って頂き、1本だけ茎のところからアルコール標本にしたが、昨年にくらべ、本数は減り、茎はやせ、記録的猛暑のためか、地面は乾燥して、いくつかついていたつぼみも、とうとう開かず枯れてしまった。他に2ヶ所、同種らしきものを見つけたが、いずれも花期の頃に行っても、開花しているのを観察することはできなかった。良い条件で残っていくということは大変難しいことだと痛感した次第である。

(蒔田かをる)



海老名伊勢山のサガミラン 1985、7、21 (Suwa)

## ● 海老名の帰化植物

海老名の植物の調査をすることになって、はや2年が経ちました。海老名市は相模川左岸に位置し、河原と相模平野と相模野台地、それと座間丘陵から成り立っていますが、きわだって高い山もなく、海岸もないにもかかわらず、841種の植物が現在までに確認されました。この中にはかなりの数の帰化植物が含まれています。今回はその帰化植物の種類を列記すると共に、アブラナ科の中で海老名で採集された果実の特長をいくつかあげてみました。(図参照)。

### 1 ツノミナズナ・ナズナ・マメグンバイナズナ

三種ともナズナと名付けられていますが、果実の形は異なります。ツノミナズナは花の色が淡青紫色の腺毛の形が特異なので、他のものと間違えることはありません。

### 2 セイヨウカラシナ・クロガラシ・カキネガラシ

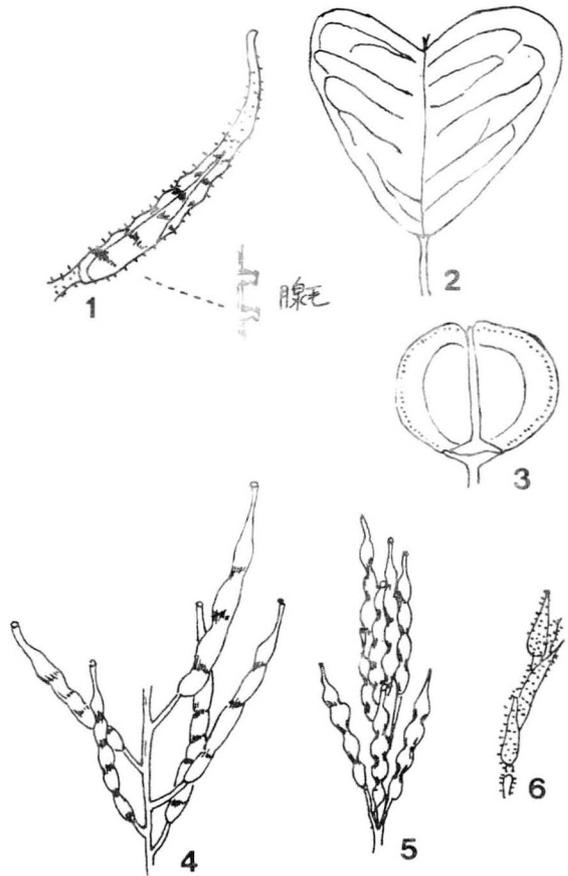
セイヨウカラシナとクロガラシは全草よく似ていますが、果実が熟した時に枝に圧着するかしないかがポイントになります。また、クロガラシとカキネガラシは果実が圧着しますが、カキネガラシの果実はどちらかというところ、二等辺三角形に近く、有毛です。

### 3 海老名の帰化植物リスト

f 207 オオカナダモ・コカナダモ、f 209 コヌカグサ・ハイコヌカグサ・メリケンカルカヤ・ハルガヤ・カラスムギ・コバンソウ・ヒメコバンソウ・イヌムギ・スズメノチャヒキ・オヒゲシバ・ジュズダマ・カモガヤ・コメシバ・シナダレスズメガヤ・オニウシノケグサ・ムカゴオウシノケグサ・シラゲガヤ・ネズミムギ・ホソ

ムギ・ネズミホソムギ・オオクサキビ・シマスズメノヒエ・カナリークサヨシ・オオアワガエリ・ツルスズメノカタビラ・コイチゴツナギ・ナガハグサ・セイバンモロコシ、f 210 メリケンガヤツリ、f 220 ハナニラ・ホソバオオアマナ、f 221 ナツスイセン、f 223 ショウブ・ニワゼキシ・ウ、f 224 ミョウガ、f 225 アサ、f 319 ツバカズラ・シャクチリソバ・オオケダマ・ツルドクダミ・ヒメスイバ・アレチギシギシ・ナガバギシギシ・ギシギシ・エゾギシギシ、f 320 シロザ・ケアリタソウ・コアカザ、f 321 イヌビユ・ホソアオゲイトウ・ホナガイヌビユ、f 322 ヨウシュヤマゴボウ、f 322.5 オシロイバナ、f 325 オランダミミナグサ・ムシトリナデシコ・コハコベ・ミドリハコベ、f 339 セイヨウカラシナ・クロガラシ・マメグンバイナズナ・オランダガラシ・ショウカッサイ・カキネガラシ・ツノミナズナ、f 341 メキシコマンネングサ・ツルマンネングサ・オカタイトゴメ、f 346 イタチハギ・ムラサキウマゴヤシ・ハリエンジュ・コメツブツメクサ・タチオランダゲンゲ・アカツメクサ・シロツメクサ、f 347 アメリカフウロ、f 348 フシネハナカタバミ・ムラサキカタバミ、f 355 ニシキソウ・コニシキソウ、f 374 イチビ、f 380 アメリカスミレサイシン、f 385 ホソバヒメミソハギ、f 390 アレチマツヨイ・オオマツヨイグサ・コマツヨイグサ・メマツヨイグサ・マツヨイグサ、f 391 オオフサモ。

f 415 マルバルコウソウ・アサガオ、f 417 ワスレナグサ・ヒレハリソウ、f 418 アレチハナガサ、f 419 ヒメオドリコソウ、f 420 アメリカイヌホウズキ・タマサンゴ、f 421 アメリカアゼナ・ピロードモウズイカ・タチイヌノフグリ・イヌノフグリ・オオイヌノフグリ、f 429 ヘラオオバコ、f 430 オオフトバムグラ・ハナヤエムグラ、f 433 ノジシャ、f 435 アレチウリ、f 438 セイヨウノコギリソウ・ブタクサ・オオブタクサ・ホウキギク・ヒロハホウキギク・アメリカセンダングサ・コセンダングサ・シロバナセンダングサ・ベニバナボロギク・ダンドボロギク・ヒメジョオン・アレチノギク・ヒメムカシヨモギ・ハルジョオン・ヘラバヒメジョオン・オオアレチノギク・マルバフジバカマ・ハキダメギク・チチコグサモドキ・イヌキクイモ・キクイモ・ブタナ・ノボロギク・セイタカアワダチソウ・オオアワダチソウ・オニノゲシ・ノゲシ・アカミタンボボ・セイヨウタンボボ・オオオナモミ、計141種。



アブラナ科の果実

1. ツノミナズナ (Chorispora属) 2. ナズナ (Capsella属) 3. マメグンバイナズナ (Lepidium属) 4. セイヨウカラシナ (Brassica属) 5. クロガラシ (Brassica属) 6. カキネガラシ (Sisymbrium属)

以上のうち、オカタイトゴメとアメリカスミレサイシンは最近、県博の大場達之先生・高橋秀男先生によって和名がつけられたものです。(羽野雅子)

付記：10月12日(1985)、中新田の道路わき生け垣に巻き付いて開花するアサガオの帰化植物を見つけました。葉が3裂して深くくびれ、茎に下向きの毛があること、花冠は紫色で径2-2.5cm、がく裂片の基部は厚く先端は尾状で外曲し、がくの外面に長毛が密生することなどからアメリカアサガオ(f 415)とわかりました。したがって、上記のリストに1種類追加することになります。

(諏訪哲夫)

● 安藤為次教育記念財団より表彰を受けました

安藤為次教育記念財団は毎年、神奈川県の教育文化に貢献した団体に賞を贈っていますが、今年は本会がその

奨励賞を受けることになりました。授賞式は12月14日におこなわれました。詳細は次の号でお知らせします。

## ● 県央のフロラ調査ノート

### 1 ハナハマヤスリ *Ohioglossum thermale* Komarov (f. 7)

高橋秀男先生が厚木市棚沢 (AT-1) で採集されているが、筆者も7月29日 (1985)、同じ場所で多数の個体が生育するのを観察した。そこは鳶尾山の麓で、10数年は経っている採石場の跡である。一面ススキなどの草地となっているが、湧水がしみ出したところは湿地状でイヤタチコウガイゼキショウが群落をつくっている。ハマハナヤスリは、これら群落の近くの少し乾いたところで見られた。いずれも胞子のう穂をつけ、よく生育した個体の大きさは、高さ18cm位。栄養葉は舟形で、中央部の幅が最も広く、長さ3cm、幅0.6~0.8cm位。コハナヤスリとの区別が難しいが、栄養葉の形態などからハマハナヤスリと同定した。9月16日に写真撮影に訪れた時は、やや生育の盛りをすぎ、胞子のう穂が痛みはじめた個体もあった。

### 2 オオバノアマクサシダ *Pteris excelsa* var. *simplicior* (Tagawa) Shieh (f. 13)

高橋秀男先生のご教示を得て、9月8日 (1985) 厚木市上荻野 (AT-1) のスギ林中で発見した。ここは経ヶ岳の麓、荻野川の源流である。何度も訪れている所だが、この日はオオバノアマクサシダ一つにしぼって歩きまわり、ようやく林縁に生育する一株を見出した。葉は新旧合わせて8枚あったが、そのうち新鮮な成葉3枚を標本にした。葉は長さ90cm、幅28cm、2回羽状で表面中脈上にとげがある。側羽片の先端は、尾状にのび、外側 (下側)

は羽状に全裂するが、内側 (上側) は羽片が不規則である。逗子・葉山方面の記録しかなかったが、内陸部の1例を加えることになった。(図の1)

### 3 オオバタネツケバナ *Cardamine scutata* Thunb. (f. 339)

座間市 (ZA) の調査で得た標本は2例あるが、やや貧弱な個体で同定に不安があった (座間市鈴鹿1982年8月19日、座間市谷戸山1981年4月17日)。しかし本年春、厚木市および愛川町の溪流わきで記録した5例の標本はいずれも高さ40cm位、花卉の長さ4mmの標準的なもので、十分納得のいくものであった。(図の2)

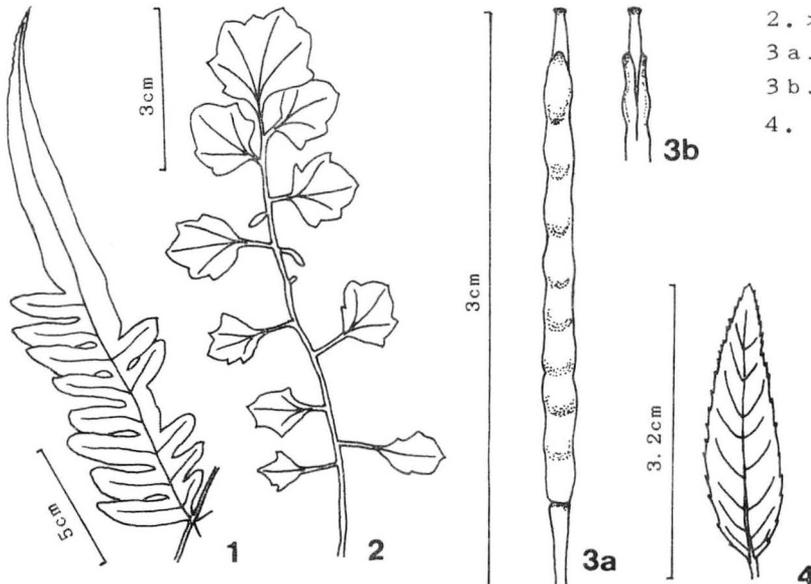
厚木市不動尻 (AT-4) 1985年4月21日  
厚木市山の神 (AT-4) 1985年4月21日  
厚木市大沢 (AT-4) 1985年5月12日  
愛川町八管 (AI) 1985年4月28日  
愛川町道の入り沢 (AI) 1985年5月3日

### 4 ハルザキヤマガラシ *Barbarea vulgaris* R. Br. (f. 339)

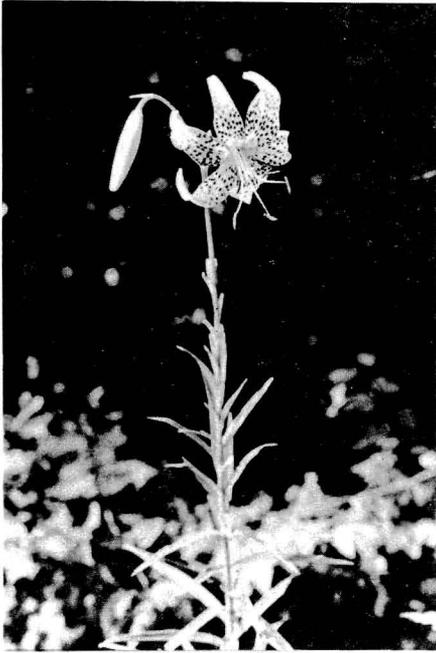
津久井・秦野・伊勢原・大磯・逗子・横浜などの各地で記録され、全県的な分布も予想されるヨーロッパ原産の帰化植物である。4月28日 (1985)、厚木市市島 (AT-1) で1株生育しているのを観察した。生育地は中津川の川べりである。(図の3)

### 5 経ヶ岳・華厳山の植物

経ヶ岳 (633m) と華厳山 (602m) は、仏果山 (747m) の南に連なる山で、その東斜面はAT-1のメッシュに属

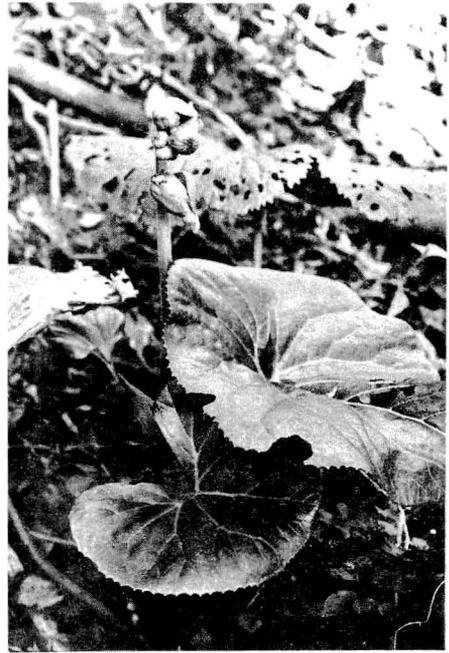


1. オオバノアマクサシダの側羽片、
2. オオバタネツケバナの葉、
- 3 a. ハルザキヤマガラシの果実、
- 3 b. 同 果実の先端
4. コゴメヤナギの葉。



1 コオニユリ

1985、8、23 経ヶ岳 (Suwa).



2 マルバダケブキ

1985、8、23 華厳山 (Suwa).

している。経ヶ岳は形が富士山に似て、地元では荻野富士とか西山とかよんでいる。

山裾の主な植物は、本誌17号で報告したが、最近、標高400m付近に法華峯林道がつくられ、林道から山頂に至る斜面には、県造林公社がヒノキの植林を行った。(1985年3月)。林道工事でけずった法面(のりめん)には、シナダレスズメガヤやオオウシノケグサなどの種子が吹き付けられ、すでにその生育が見られる。植林はコナラを伐採して行われ、この夏は下草刈りも実施された。従って、今後この斜面のフロラは大きく変化していくのではあるまいか。この斜面の調査は、10月21日・11月4日(1984)、4月2日・5月3日・6月1日・8月23日(1985)の6回実施したが、その時観察した主な植物は次のようなものである。(写真1・2)

(f.105)モミノキ、(f.209)ウラハグサ・ハネガヤ・オオアブラスキ、(f.212)ミミガタテンナンショウ、(f.220)チゴユリ・コオニユリ・ナルコユリ・ヤマホトトギス、(f.222)キクバドコロ・ヒメドコロ、(f.223)ヒオウギ、(f.226)エビネ、(f.302)ヒトリシズカ、(f.310)オオバコアカソ、(f.316)オオバウマノスズクサ、(f.331)ヤマトリカブト・サラシナショウマ、(f.343)マルバウツギ、(f.345)ウワミズザクラ・マメザクラ・ヤマテリハノイバラ・シモツケ、(f.354)ヒメハギ、(f.355)シラキ、(f.365)ウリカエデ・オオイタヤメイゲツ、(f.376)サルナシ、(f.380)ナガバノスミレサイシン・アカネスミレ・

ツボスミレ、(f.383)オニシバリ・コガンビ、(f.384)ナツグミ、(f.395)シシウド、(f.403)ヤマツツジ、(f.407)マメガキ、(f.410)マルバアオダモ、(f.412)センブリ、(f.414)コバノカモメズル・オオカモメズル、(f.419)シモバシラ・キセウタ・ヒキオコシ、(f.421)コシオガマ・ヒキヨモギ、(f.430)ツルリンドウ、(f.438)ヒヨドリバナ・ヤマニガナ・センボンヤリ・マルバダケブキ・キクアザミ。

#### 6 山崎久氏採集の厚木産標本

厚木市立睦合中学校教諭 山崎久氏に依頼して下記の標本を提供して頂いた。標本は7月25日～28日(1985)に採集したもので、すべて県博に収めてある。

(f.222)ヒメドコロ AT-1 中荻野、(f.306)ミヤマヤシヤブシ・イヌシデ AT-1 鷹尾山、(f.325)シラタマソウ AT-3 森の里青山、(f.343)コアジサイ AT-1 中荻野、(f.346)ジャケツイバラ AT-1 新宿、(f.346)キササゲ AT-5 旭町4丁目、(f.365)ウリカエデ AT-1 中荻野、(f.374)イチビ AT-1 中荻野、(f.378)トモエソウ AT-1 森の里青山、(f.384)ナツグミ AT-1 中荻野、(f.402)イチヤクソウ AT-1 中荻野、(f.414)オオカモメズル・コバノカモメズル AT-1 中荻野・スズサイコ AT-1 鷹尾山、(f.419)ハッカ AT-5 高碑・ツルニガクサ AT-1 新宿、(f.438)ナガバノコウヤボウキ AT-1 鷹尾山

山崎久氏は「厚木の自然―身近な動植物」(1985、厚木市教育委員会刊)の調査を担当されたが、調査は写真記

録により、標本は作成されていない。今回提供された標本は調査記録をもとに採集されたものである。協力頂いた山崎氏にお礼を申し上げます。

#### 7 座間市の植物

座間市(2A)のフロラは、殆ど調べつくした感があるが、座間市在住で本会会員藤野知弘氏の報告によると9月8日(1985)、市内緑ヶ丘の土手でキセワタ(f.419)数株の生育を観察し、標本も作成したので県博へ収蔵したいとのこと。また4月6日(1985)、「神奈川の春はどこからくる」の調査中、市内四ツ谷でツノミナズナ(f.339)を観察したが標本はないということである。

1980年から1981年へかけて谷戸山で観察したミズニラ(f.4)のその後が気になったので、筆者はこの8月現地を訪れたが、休耕田には一面にヨシがおい茂り、わずかにミズニラの生育する余地を残すばかりであった。もう一夏そのまま放置するとミズニラはヨシ原の中に埋れてしまう恐れがある。座間市の関係機関にヨシを刈るなど、多少の人手を加えるように要望しておいた。谷戸山は、市も県の力を借りて自然公園として残す方針のようだが、このミズニラやヨシ原にすむホンダカヤネズミ(ネズミ科)は、貴重な野生種として保全に万全を期してほしいものである。

#### 8 コゴメヤナギ *Salix serissaefolia* Kimura (f.303)

コゴメヤナギは、小田原・中井・秦野・伊勢原・藤野などから記録されているが、採集された標本は比較的少ない。7月31日(1985)、宮ヶ瀬の中津溪谷岸(KI-2)に生育する個体を観察し、標本を得た。川岸を念入りにさ

がせば、各地に記録例を加えることが可能のように思える。(図の4)

#### 9 アキノハハコグサ *Gnaphalium hypoleucum* DC. (f.438)

10月13日(1985)、厚木市森の里青山(AT-3)のクヌギ・コナラ林に沿った遊歩道わきに咲くアキノハハコグサ1株を見つけた。ここは、2年程前に造成され、歩道も舗装されているが、雑木林を建物の背後にベルト状に残す手法が用いられている。

アキノハハコグサは、愛川町(AI)で山口勇一氏が記録され、乾いた山地に生育すると聞いていたので、昨春秋はAT-1の銅座金山付近を注意して見ていたが発見できなかった。今回は全く偶然の発見である。この個体は高さ50cm、上方で7つの枝に分かれ、各枝に10数個の頭花をつけている。葉は上面緑色で、最大幅4mm、茎の下半分の葉は枯れている。花柱は花冠の外に突き出て、ハハコグサとは明らかに違う特長である。(諏訪哲夫)

アキノハハコグサはなかなかすくなくないものであるが、今年の10月に、田園都市線つきみ野駅構内(大和市)の、関東ローム(火山灰層)の切り取り面に生えているのを見た。アキノハハコグサは痩せた酸性の土を好み、関東地方では関東ロームを削ったところに多く見られるようである。今回の調査では鎌倉の腰越、城山町の小倉山等でみているが、いずれも関東ロームの削平面であった。(大場達之)

## ● 愛川町の主な植物

筆者の調べた愛川町のフロラは、本年9月20日現在で合計828種類、その内訳はシダ植物57・裸子植物12・単子葉植物187・離弁花植物364・合弁花植物208である。これらのうち主な植物を次ぎに紹介したい。

1 f・3 イワヒバ 山地の日当りの良い岩場に見られる。

2 f・9 ヤシャゼンマイ ゼンマイが日陰を好むのに対して本種は日なたに多い。

3 f・209 ハイチゴザサ 小形のイネ科植物。八管山に群落がある。

4 f・220 カタクリ 町内の沢沿い3か所で確認した。

5 f・220 イワギボウシ 溪谷の岩場に多い。

6 f・220 シロバナショウジョウバカマ 中津溪谷で1株発見した。

7 f・220 ユキザサ 志田山、八管山に生育する。

8 f・220 エンレイソウ 広菱形の葉を三輪生。仏果

山に生育する。

9 f・220 ツクバネソウ 前種に似るが細身の葉を四輪生。仏果山に多い。

10 f・223 ヒオウギ オレンジ色の花をつける。仏果山に多い。

11 f・226 ユウシュンラン 林床に咲く。志田山。

12 f・325 フシグロセンノウ 乱掘によって減ってきた。志田山に見られる。

13 f・325 オオヤマハコベ 山中の沢沿いに生育する。

14 f・331 ヤマジャクヤク 半原の沢で発見した。

15 f・337 ヤマブキソウ 半原に群落が見られた。

16 f・339 シコクハタザオ 中津溪谷に多い。

17 f・341 ツメレンゲ 日当りの良い山の岩場に見られる。

18 f・343 ハルユキノシタ 湿った岩場に多い。

19 f・395 オオバチドメ チドメグサの中では最大で

ある。沢沿いに生育する。

- 20 f・395 ホタルサイコ 八菅山で一株発見した。  
21 f・402 ギンリョウソウ 志田山の林内に生育する。  
22 f・403 サツキ 中津溪谷の岩場に生育する。  
23 f・412 アケボノソウ 山地の湿地4か所で発見。  
24 f・424 イワタバコ 谷間の湿った岸壁に着生する。  
25 f・432 レンブクソウ ケヤキ林の林床に生育する。  
26 f・435 キカラスウリ カラスウリにくらべて少ない。半原峠。

- 27 f・438 オヤマボクチ 志田山では普通に見られる  
28 f・438 フジアザミ 山地の荒れた土地に生育する。  
29 f・438 ヤマハハコ ハハコグサにくらば葉は細身で節目がつんでいる。半原。  
30 f・438 アキノハハコグサ 黄色の花で、細身の葉をもちハハコグサと区別できる。(山口勇一)  
〈編集者注〉分布の狭い、具体的な地名数カ所は、けずらせていただいた。

## ● 仏果山 ( A I ) を歩いて

丹沢山地の北東に位置する愛川町は、仏果山や経ヶ岳の北斜面と、小仏山地から続く三増山地の南端に位置している。町の中央を中津川が、東側を相模川が流れ、地形的には複雑な土地である。集落は、山間の半原、田代地区が中津川沿いの沖積低地に、三増地区が扇状台地に、下流の中津地区は洪積台地上に発達している。町勢的には人口35000人、内陸工業団地や住宅団地もある。

こうした変化に富む愛川町には、山地の植物から市街地の植物まで、多様なフロラが形成されている。特に仏果山や経ヶ岳は、海拔6~700m程の山地ではあるが、急峻な斜面と多くの横谷を有し、植生的にも興味のあるものになっている。

仏果山山頂付近には、イヌブナ、アカシデ、シラキ、ウリカエデ、マメザクラ、オオモミジなどの他に、クロウメモドキ、ヤマコウバシ、ネジキツノハシバミ、クロモジ、ヤマボウシ、ツクバネウツギ、ミヤマウコギ、オオバヤシャブシ、カナウツギ、ミヤマイボタ、アズマイバラ、ツリバナ、コバノガマズミ、ミツバウツギや、アセビ、ヒサカキ、スズタケ、ヤダケなども見られる。

中腹から山裾にかけては、モミ、マメザクラ、ホオノキ、ミズキ、イヌシデ、リョウブ、カジカエデ、オオモミジ、ウワミズザクラ、イタヤカエデ、コナラ、クヌギ、ハリギリ、オニグルミ、ヤマハンノキなどの他、オトコヨウゾメ、ジャケツイバラ、カラスザンショウ、ミヤマシキミ、ヤマアジサイ、フサザクラ、タマアジサイ、ホタルカズラやイヌツゲ、ウラジロガシからなる雑木林が植栽林のスギ、ヒノキなどとモザイク状に林分を作り斜面毎に趣を変えている。

仏果山は、近在に「煤ヶ谷」の地名があるように、かつては薪山や炭焼が盛んであったが、木材資源の育成の

もとに雑木林が切り開かれ、スギやヒノキの植付地に変わりつつある。また経ヶ岳中腹の林道の建設や、日本有数と言われる宮ヶ瀬ダムの建設も始まり、その付帯工事によって急速に変容している箇所もあり、植生にも影響を与えるようになるであろう。

上記の他、仏果山に見られる主な植物は下記の通りである。

- f.3 イワヒバ、 f.13 クジャクシダ・ハコネシダ、 f.209 ウラハグサ、 f.210 タガネソウ、 f.212 ホソバテンナンショウ・ミミガタテンナンショウ、 f.220 チゴユリ、 f.220 ツクバネソウ・ヤマガシユウ・エンレイソウ、 f.222 ヒメドコロ、 f.223 ヒオウギ、 f.226 キンラン・シュンラン、 f.302 ヒトリシズカ・フタリシズカ、 f.310 コアカソ・ウワバミソウ、 f.316 ランヨウアオイ、 f.325 フシグロ、 f.331 ヤマトリカブト・イヌシヨウマ・クサボタン、 f.337 ミヤマキケマン、 f.343 ヤマネコノメ・ミヤマコノメ、 f.345 ミヤマフユイチゴ・シモツケ、 f.346 ホドイモ・ヤブハギ、 f.348 カントウミヤマカタバミ、 f.351 マツカゼソウ、 f.354 ヒメハギ、 f.371 サンカクズル(ギョウジャノミズ)、 f.376 サルナシ、 f.380 ナガバノスミレサイシン・アオイスミレ・ケマルバスミレ、 f.395 ノダケ・シラネセンキュウ、 f.402 イチヤクソウ、 f.412 リンドウ ツルリンドウ、 f.417 ヤマルリソウ、 f.418 ヤブムラサキ、 f.419 シモバシラ・セキヤノアキチヨウジ・キバナアキギリ、 f.424 イワタバコ、 f.430 ヤマムグラ、 f.436 タニギキョウ、 f.438 ノブキ・ヤマハハコ・ヤマシロギク・キントキシロヨメナ・ヤブタバコ・ガシクヒソウ・ホソエアザミ・オオキンケイギク・カシワバハグマ・キクアザミ・タムラソウ・オヤマボクチ。

(山口勇一)

## ● シケシダ類の雑種の観察

シダには一見して簡単に種が同定できるものがある反面、大変にむずかしい仲間もあります。シケシダ属 (*Lunathrium*) の中のシケシダ類も分類困難とされるグループの一つです。シケシダ類は葉の形、大きさ、切れ込みなどの変化が著しく、種としてのまとまりが弱いので、よく似た2種の間でどちらともつかない個体がときに見られます。その上、雑種ができやすく、しかもこれが上の微妙な個体とよく似てくるので、同定には慎重な検討が必要となります。

シケシダ類は我が国では現在8種4変種ほどが認められています。本県にはそのうち、シケシダ・ナチシケシダ・セイタカシケシダ・ホソバシケシダ・フモトシケシダ・ヤリノホシケシダが報告されています。そこで、これらを両親種とする各種の組み合わせの雑種があるわけですが、現在神奈川県で見出されている雑種にはつぎのようなものがあります。

- ムサシシケシダ (シケシダ×セイタカシケシダ)
- オオホソバシケシダ (シケシダ×ホソバシケシダ)
- コセイタカシケシダ (ホソバシケシダ×セイタカシケシダ)
- サツマシケシダ (シケシダ×ナチシケシダ)
- タマシケシダ (シケシダ×フモトシケシダ)
- ホソバフモトシケシダ (ホソバシケシダ×フモトシケシダ)

いずれも産地は多いとはいえませんが、今後の調査によってふえていくものと思われます。また、筆者は今夏に横浜市緑区であらたに、セイタカシケシダ×フモトシケシダと推定される雑種を見つけていますが、これについては今後いろいろな角度からの研究を必要とと思っています。

一般に雑種の認識には、両親種の特徴をよくつかむことが大切なことは言うまでもありませんが、両親となる種類の区別が微妙なシケシダ類では、ぜひとも胞子を調べてみる必要があります。幸いシケシダ類は胞子が見やすく、ソーラスのついている部分の下に白紙を置き、葉をたたいて胞子を落とし、ルーペで見ると、正常な胞子は形がきれいで、大きさも揃っているのに対し、雑種の場合はさまざまな形をした異常胞子が見られますので、顕微鏡で観察しなくても、これだけで雑種かどうかのおよその見当がつかます。一方、シケシダ類の雑種では、形の整った胞子が含まれるのが特徴のようで、例えばムサシシケシダなどでは、まけば発芽するのではないかとと思われる胞子もみられます。まだ、発芽の実験はしていないのですが、これは興味深いことだと考えています。

(山本 明)

## ● アメリカスミレサイシン

一見スミレサイシンのような葉で、濃い紫色の花をつけるスミレ類がある。かなり古くから園芸植物として植えられ、花の色がわりも幾つか知られている。これは普通 *Viola papilionacea* と呼ばれてきたが、H. Klaber の *Violets of the United States* によれば *Viola sororia* Willd. にあたるらしい。同書によると、*Viola sororia* は *Garage Violet* などの名があり、アメリカ合衆国で最も一般的なスミレであるという。これとよなじものと、考えられるものが、ヨーロッパの南部にも帰化していて、*Flora Europaea* 2:276には、それが *Viola obliqua* Hill. (= *V. cucullata* Aiton) となっている。ところがこの異名となっている *Viola cucullata* は、Klaberによれば、*Viola sororia* によくなっているが、閉鎖花がより細長く、湿つ

たところにはえるものであるらしい。このあたりのことは更に多くの文献に当たらないと、判断がつかねるが、一応 Klaber にしたがって、*Viola sororia* Willd. であるということにしておく。この植物にはまだ和名がないので、アメリカスミレサイシンと新称しておく。

アメリカスミレサイシンは太い根茎のあるところや、太くて短い距など、スミレサイシン類に似ているが、柱頭の形は異なっており、Sect. *Borealiamericanae* W. Becke という別の節にされている。そこでこの節もアメリカスミレサイシン節と新称しておきたい。これらの名前は数年前にさる本の原稿に、両名で書いたのであるが出版が遅れているうちに、帰化品が現れてきたので、ここにしるした。

(高橋秀男、大場達之)

## ● 大山周辺カンアオイ類の分布

神奈川県植物目録(1933)、神奈川県植物誌(1958)にオトメアオイの分布が大山、箱根とあるので大山周辺のカンアオイの分布を20年余り特に気をつけて歩いてみたが、今のところオトメアオイを確認することができない。煤ヶ谷(KI-3)、七沢(AT-4)に属するところでは上部にカントウカンアオイ、下部にランヨウアオイを確認することができた。宮ヶ瀬方面(KI-2)にはフタバアオイを確認しており、煤ヶ谷、七沢方面にもあると思われるがまだ確認していない。

七沢の広沢寺より二の足林道沿いトンネルの手前(AT-4)はランヨウアオイ、トンネルを越え不動尻から唐沢峠への途中まではカントウカンアオイである。唐沢峠から尾根筋大山頂上にかけてはカンアオイ類の分布を見ない。鐘ヶ岳(浅間山・AT-4)頂上付近と尾根筋はカントウカンアオイで山麓はランヨウアオイの分布となる。谷太郎沿い不動尻までの下部はランヨウアオイ、上部はカントウカンアオイとなっている。煤ヶ谷から物見峠(KI-3)にかけては下部ランヨウアオイ、上部カントウカンアオイ。唐沢川にくぐるとランヨウアオイの分布となっている。札掛方面(KI-2)はランヨウアオイが多い。物見峠から大山三峰の尾根筋にかけてはカントウカンアオイとなっていて三峰頂上付近にはカンアオイの分布を見ない。七沢お釜弁天から日向山(AT-4)の尾根筋から日向薬師にかけてはカントウカンアオイである。

飯山観音付近の谷すじから樹木園にかけてはランヨウアオイ、白山頂上付近(AT-3)はカントウカンアオイと

なっている。飯山温泉元湯付近はランヨウアオイが点在し小鮎川をはさんだ田野から白山にかけてはカントウカンアオイとなっている。

大山表参道(ISE-1)ではバス終点より下部はランヨウアオイで上部はカントウカンアオイとなっている。阿夫利神社下社付近(ISE-1)から100米登ったところまでカントウカンアオイを見ることができるので、大山では標高800米までカンアオイが分布することになる。

なおカントウカンアオイは西は秦野の弘法山(HAT-5)まで分布し、秦野盆地には見あたらない。水無川を越えると花がオトメアオイに似た仮称タンザワカンアオイ(1984神奈川県自然誌資料NO.5)の分布となっていて西丹沢一帯(YA-4・5)に見ることができるが、カントウカンアオイは見かけない。ランヨウアオイは松田町寄(MAT)方面まで下部に分布はつゞくが川音川を越えると箱根(HAK)までランヨウアオイは確認できない。箱根は全山(中央火口丘には分布しない)オトメアオイの分布で、芦ノ湖の向う側山伏峠三国山にランヨウアオイをわずかに確認している。

湯河原から静岡県十国峠へかけての日金山参道はオトメアオイとランヨウアオイが混生しているがカントウカンアオイは確認できない。

最近都立大の菅原敬氏が上にあげた仮称タンザワカンアオイの伊豆修善寺における分布を発表している(1985植物研究雑誌第60巻第7号)。(内田藤吉)

### 文献紹介

1 神奈川県厚木市上荻野におけるアイノコクマワラビの分類学的研究 山本明・畑中喜秋・中池敏之、1985年3月(国立科学博物館研究報告B類)14p.

2 厚木の自然—身近な動植物・1985年3月(厚木市教育委員会)

環境(8p.)、さまざまな環境(172p.)、地域の自然(38p.)、資料編—厚木市の小学校区別植物目録(24p.)、索引(3p.)

3 神奈川県自然誌資料 NO.6 1985年3月(神奈川県立博物館)

高橋秀男: 神奈川県植物地理(11p.)、長谷川義人: ミゾソバ類について(8p.)、中村俊彦: 神奈川県内の森林植生の人為による改変と着生コケ群落の生態(8p.)、生出智哉・児玉規子: 鎌倉のせん苔類目録(6p.)、浜

口哲一: 丹沢山地のエゾタンポポについて(2p.)

4 神奈川県立自然保護センター調査研究報告2 1985年3月(神奈川県立自然保護センター)

井上七五三・増子忠治・高橋和弘: 身近な帰化植物調査の結果について(16p.)

5 レポート日本の植物 NO.25 1985年7月(レポート日本の植物編集室)

篠田朗彦: シャシャンボの自生地を三浦半島に見る(1/4p.)、染野邦夫: 神奈川県・南郷山の植物目録(2)(1/3p.)

6 ズソウカンアオイ及びその近縁種について(英文) 菅原敬 1985年7月(津村研究所・植物研究雑誌60巻7号)11p.

## ● 相模原 2 の調査から

相模原 2 のメッシュは、市の南西部にあたり、西側の厚木市との境には相模川があり、南側は座間市に接しています。段丘崖からの水は、道保川・姥川・鳩川・八瀬川に流入し、上磯部から南は沖積平野になっています。単純な地形の相模原の中では、比較的变化に富む調査区です。

1、相模川河原の植物 下磯部の頭首工の下には、イヌクサやカワラヨモギの群落があり、カワラハハコ・カワラノギク・カワラサイコ・カワラナデシコなども多く見られます。昭和橋の下にはタコノアシ、高田橋の下にはカワラアカザが生育しています。

2、下磯部水田の植物 能徳寺近くの水田に毎年サンショウモが発生します。砂利を採取した後の休耕田には、サンカクイ・コガマ・ヒメガマが見られます。ヒメガマは比較的少ないようです。水路には、コカナダモ。八瀬川では、オオカナダモが見られます。

3、河川と段丘崖の植物 鳩川と道保川には、ムツオレグサが見られます。道保川の崖にはシュロソウが多かったのですが、最近では減ってきました。またサイハイ

ランも四年前から見られなくなりました。エビネも減少しています。

4、帰化植物 ブタナの群落が相武台中隣のキャンプ座間入口で見られます。ゼニバアオイ・センナリホオズキは相陽中近くの養豚場わきに群落を作っています。ヒメマツバボタンは、昭和橋の近くで見られます。

5、暖地性植物 カゴノキ・カクレミノが勝坂で見られます。カゴノキは直径30cm位の大木です。また道保川の崖には、ヤマガシユウが生育しています。

6、ホタルブクロ類 ヤマホタルブクロとホタルブクロの2種類が、下磯部の同じ崖に生育しています。

7、ヤドリギ 下磯部のケヤキに寄生するヤドリギは、数は多いがいずれも小さいものです。ところが、上溝のエノキにつくものは1株ですが、枝分かれして大きくなっています。

以上気のついたところをまとめてみました。色々ご教示頂いた相模原市役所の太田泰弘先生にお礼を申し上げます。(山口文男)

## ● ヒメヨモギについて

ヒメヨモギ *Artemisia feddei* は、神奈川県植物目録(1933)、神奈川県植物誌(1958)、横浜植物誌(1968)、丹沢山塊高等植物目録(1961)などには収録されているが、箱根植物目録(1958)には見られない。記録されているリストのなかで産地をあげているのを見ると、横浜では土手、路傍に極めて希とあり、丹沢では津久井を産地としてあげているのみで、ごく普通に生えているヨモギと比べると個体数の少ない種類である。

植物誌調査が開始された当時、県内に記録されている種類としてリストアップはされたものの、標本の採集は出来ないまま時間がたった。1983年7月9日箱根の長尾峠から丸岳(1156m)の神奈川県側で補充調査を実施した際に、道端でヨモギに比べ葉の裂片の幅の狭い一見ヒメヨモギらしい個体を発見した。まだ花には早かったので採集して持ち帰り、栽培して完全な個体を標本にすることにした。開花した個体を見ると、頭花は小さく、葉の裂片の幅もヨモギに比べ著しく狭く、明らかにヒメヨモギと同定できるものであり、箱根は新産地となったのである。メッシュは箱根-1(HAK-1)。再び本年(1985)10月13日に姥子付近(箱根-1)のススキ草原で採集したが、個体数は少なかった。しかし、今後山地に生えるヨモギを注意深く観察すれば、

まだ各地で採集される可能性は十分ある。

ヒメヨモギの特徴を明らかにするために、たまたま私の家の近くに生えていたヨモギと鎌倉市稲村が崎産のユキヨモギを加え、3種の茎葉の形を比較し図にしてみた。ヒメヨモギはその名にふさわしく、葉はスマートで裂片は線形、幅2-4mm、頭花は小形で疎らに着き、幅約1mm、長さ約2mmあり、全体の感じがやさしい。

(高橋秀男)



## ● 相模原のセイヨウトゲアザミ

1985年8-9月、相模原市立九沢小学校西側の幼稚園グラウンドに、ヒロハホウキギク・ヨモギ・カヤツリグサ・タマガヤツリ等に混じり生育していた。土はどこからか運ばれてきた赤土まじりの残土で、水田の土のようになっていた。

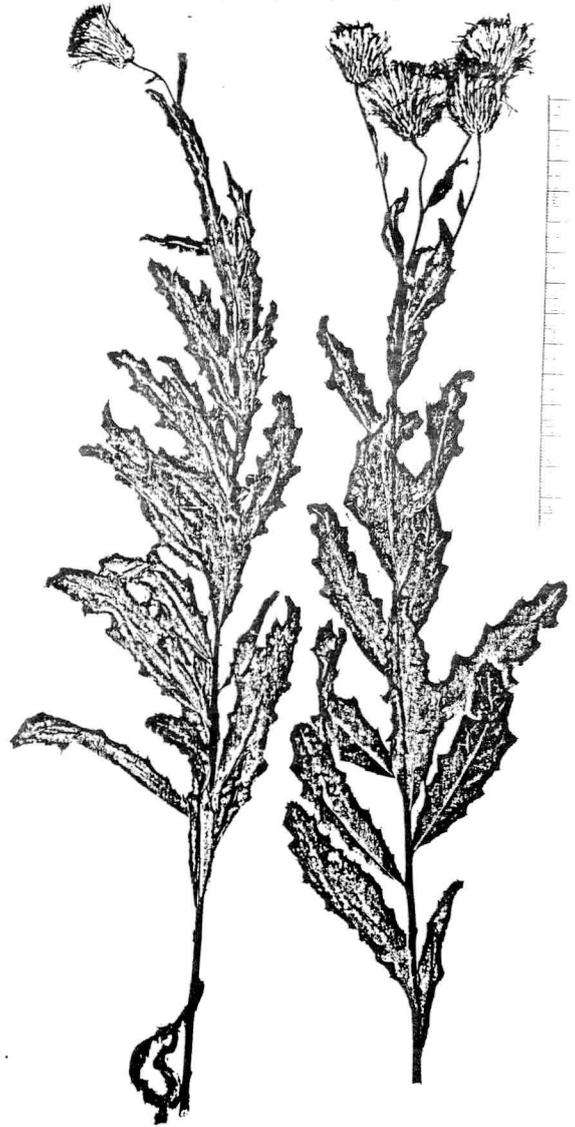
茎は直立し20株位あり、高さは25cmから50cm位。葉は無柄で、葉身の長さ6cm弱、幅は1.2~1.6cmで、鋸歯の先端には1.0~1.5mm内外の刺針がある。

頭花は1~2個で、枝の先にやや上向きにつき紅紫色。総包は幅1cm内外、総包片は太い針状である。果実の大きさは2mm内外、冠毛は1.5cm~1.6cm位で、羽状に分枝する。  
(八木 馨)

付記：セイヨウトゲアザミは、県立博物館で*Cirsium arvense* (L.) Scop. (f 438) と同定されたヨーロッパ原産の帰化植物で、北海道に帰化しているのが知られている。長い地下茎でふえ、原産地のヨーロッパでは、畑の雑草としていやがられている。同定に当たられた高橋秀男先生・大場達之先生並びに再三にわたって生育地を調査された八木馨氏に感謝したい。(諏訪記)

相模原市で採集されたセイヨウトゲアザミ、やや葉の切れ込が浅く、エゾノキツネアザミにもにている。

*Breca arvense* (= *Cirsium arvense*) (Suwa).



## ● セイヨウトゲアザミの周辺

八木さんが相模原市で発見されたアザミの一種は、少し育ちの悪い個体でしたが、セイヨウトゲアザミ *Cirsium arvense* と、同定できるものでした。この植物は、ヨーロッパでは、畑の厄介な雑草として有名です。地下に長い根をのびし、その根から不定芽をだしてふえるので、なかなか根絶するのがむずかしく、畑では、毎年、春先に出てくる芽を、カットする必要があります。私はこれを西ドイツでよく目にしていましたので、八木さんの標本を見せられたときに、すぐに *Cirsium arvense* ではないかと気づきましたが、和名がすぐにはわからなかったのので仮に学名にもとずきハタケアザミとしておきました。

その後1980年に浅井康宏博士がこれにセイヨウトゲアザミという名を与えていることをしりました(実際は1976年に発表した名前という)。この類は北村四郎博士に依れば、長く伸びた根から不定芽をだして増えること、雌雄異株であること、冠毛が花が咲き終わってから、急に長く伸びることなどで、アザミ属からは区別してアレチアザミ属 *Breca* Less (古くは *Cephalonoplos*) とされるものであるとのことです。世界には、このセイヨウトゲアザミのほかエゾノキツネアザミ、アレチアザミの3種があります。しかし、ヨーロッパではアザミ属のうちの節として扱われるのが普通です。またこのアレ

チアザミが帰化している北アメリカでも、やはりアザミ属にいられています。この3種のうちアレチアザミとエゾノキツネアザミはアジアに分布の中心があり、セイヨウトゲアザミはヨーロッパを中心に分布しています。北村博士に依れば、セイヨウトゲアザミとエゾノキツネアザミとはごく縁の近いもので、ユーラシアの東西に分かれた対応種の関係にあるものだといいます。この3種は標本で検討すると、次のように区別できるようです。

このようにセイヨウトゲアザミとエゾノキツネアザミとは、極めてよく似た種類で、別種とするよりは、同種

内の変種、あるいは亜種の関係にあるものと考えたほうがよいようにも思えます。

文献

北村四郎 1959 エゾノキツネアザミの学名の変更。植物分類地理 18:79.

浅井康宏 1980 帰化植物ノート(5)。植物研究雑誌 55:157-160.

森田弘彦 1981 北海道に帰化したセイヨウトゲアザミ。植物研究雑誌 56:128.

(大場達之)

雄花の総ほうは長さ18mm、雌花の総ほうは長さ23mm、葉は長楕円形で切れ込みがなく、葉縁に同じくらいの大きさの、細かい刺が列生する。葉の側脈は葉の縁の手前で上に流れ、葉縁に達しない。

1 アレチアザミ

*Breea segeta* (Bieb.) Kitamura  
日本では対馬に知られている。

雄花の総ほうは長さ13mm、雌花の総ほうは長さ15-20mm。葉は卵状円形、または長円形で、少なくとも茎の上部の葉は切れ込みがあり、葉の縁には大きな刺と、小さな刺とがまじる。葉の側脈は葉の縁に達し葉の裂片の先端にある刺に連なる。

葉は浅い上向きの切れ込みがある。花は7月下旬から開花する。

2 エゾノキツネアザミ

*Breea setosa* (Willd.) Kitamura  
中国からシベリヤにかけて分布し、日本では北海道と青森などに古くから帰化(?)している。

葉には開出したやや深い切れ込みがあり花は7月上旬から咲く。

3 セイヨウトゲアザミ

*Breea arvensis* (L.)  
ヨーロッパ原産で北アメリカに帰化し、日本では北海道に早くから帰化していたらしい。



## ● 県央ブロック調査のまとめ

8月24日(1985)、県立有馬高校を会場に植物誌調査会・県央ブロック会を開き、調査のまとめをした。調査標本は、9月に入って県博へすべて収蔵し、データをコンピューターへ入力することによって、各メッシュの標本数を算出した。その結果を下に示す。前年度に比べると調査はかなり進捗したが、清川1・相模原2・3、厚木2の調査がまだ不十分である。担当者の努力と合同調

査などによる補足を期待したい。

本号は県央ブロックの担当、ということで、各方面をお願いして原稿を書いて頂いた。協力して頂いた各氏にお礼を申し上げたい。編集を一通り終えて感じたことは、帰化植物の報告が、目立つことで、県央の環境変化の著しさを反映しているように思える。(諏訪哲夫)

### 県央ブロック調査種類数

1985、11、26 現在



## ● 県立博物館での調査標本整理状況

### 1 標本戸棚の整備状況

昭和59年度までは標本戸棚の不足で、折角集められた標本もダンボール箱に詰められていたものが相当数にのぼり、整理にもその利用にも大変不便であった。60年度に入り他に使用されていた戸棚を空けたり、4月当初に3台、さらに6月に2台が購入されたので、一挙に17台となり今までの標本全部が格納できるようになった。

1台の標本戸棚は、上下一重ねになり、高さ210cm・幅106cmで、中の仕切りは経てに3列。1列が16段(一部のものが22段)に仕切られている。

現在シダ植物(科番号-0番台)に11/4台、裸子植物(100番台)に1/4台、単子葉植物(200番台)に41/4台、双子葉植物離弁花類(300番台)に7台、同弁花類(400番台)に4台を使用している。収納状況は80%以上に及び、本年度で満杯になる状況である。

### 2 標本の収納状況

標本は種類ごとに厚目のクラフト紙にはさんで一包にし、一段に1~数包が入れられている。なお、標本の上には、はさみ紙大の種類ごとのリスト用紙が入れられ、今までの採集記録が標本の保管場所K(県博)・H(平

塚市博)・Y(横須賀市博)の記号で入っている。

### 3 標本の分類整理状況

昨年度までの標本は、分類整理され標本戸棚に収納済みとなった。本年度分は、山北・箱根方面合同調査分を除いて同定とコンピューターへの入力が済み、一部は既に戸棚に収納されている。

### 4 今後の仕事

今後の仕事は、収納されている標本について各執筆者に再検討して頂き、リスト用紙で標本の有無を再確認し、最終的な分布図作成の元本をつくることである。既にこの仕事にとりかかっている執筆者もおられる。

### 5 提出標本についてお願い

提出される標本のはさみ紙(新聞紙の左側が折り目)の下欄にメッシュ番号・メッシュ記号・科番号・種番号・和名等を記入して頂くと、整理作業がはかどるので、よろしく願いたい。標本の整理番号は、1983年の仮目録(ただしシダ植物は1984年)によっているので、種番号がわからない場合は科番号まで、和名不詳のときは未記入で願いたい。(守矢淳一)

メッシュ別種類数一覽

括弧内の右側は、今回の調査で採集された標本、左側はメモ、文献などで補足した種類数です。  
1985年11月26日現在

|    |     |   |      |   |     |   |       |     |      |   |     |   |     |   |       |
|----|-----|---|------|---|-----|---|-------|-----|------|---|-----|---|-----|---|-------|
| 1  | 藤野  | 1 | 696  | ( | 693 | + | +3)   | 55  | 秦野   | 1 | 469 | ( | 467 | + | +2)   |
| 2  | 藤野  | 2 | 578  | ( | 578 | + | +0)   | 56  | 秦野   | 2 | 840 | ( | 840 | + | +0)   |
| 3  | 相模湖 |   | 629  | ( | 623 | + | +6)   | 57  | 秦野   | 3 | 918 | ( | 908 | + | +10)  |
| 4  | 津久井 | 1 | 422  | ( | 422 | + | +0)   | 58  | 秦野   | 4 | 902 | ( | 900 | + | +2)   |
| 5  | 津久井 | 2 | 425  | ( | 424 | + | +1)   | 59  | 秦野   | 5 | 779 | ( | 779 | + | +0)   |
| 6  | 津久井 | 3 | 656  | ( | 647 | + | +9)   | 60  | 大山   |   | 366 | ( | 361 | + | +5)   |
| 7  | 津久井 | 4 | 445  | ( | 440 | + | +5)   | 61  | 伊勢原  | 1 | 953 | ( | 949 | + | +4)   |
| 8  | 津久井 | 5 | 683  | ( | 458 | + | +225) | 62  | 伊勢原  | 2 | 645 | ( | 644 | + | +1)   |
| 9  | 城山  |   | 710  | ( | 673 | + | +37)  | 63  | 伊勢原  | 3 | 734 | ( | 734 | + | +0)   |
| 10 | 山北  | 1 | 417  | ( | 416 | + | +1)   | 64  | 平塚   | 1 | 909 | ( | 902 | + | +7)   |
| 11 | 山北  | 2 | 371  | ( | 366 | + | +5)   | 65  | 平塚   | 2 | 654 | ( | 653 | + | +1)   |
| 12 | 山北  | 3 | 429  | ( | 399 | + | +30)  | 66  | 平塚   | 3 | 612 | ( | 609 | + | +3)   |
| 13 | 山北  | 4 | 518  | ( | 504 | + | +14)  | 67  | 二宮   |   | 748 | ( | 746 | + | +2)   |
| 14 | 山北  | 5 | 654  | ( | 627 | + | +27)  | 68  | 大磯   |   | 895 | ( | 894 | + | +1)   |
| 15 | 山北  | 6 | 669  | ( | 632 | + | +37)  | 69  | 茅ヶ崎  | 1 | 831 | ( | 831 | + | +0)   |
| 16 | 山北  | 7 | 621  | ( | 616 | + | +5)   | 70  | 茅ヶ崎  | 2 | 710 | ( | 709 | + | +1)   |
| 17 | 山北  | 8 | 547  | ( | 523 | + | +24)  | 71  | 寒川   |   | 680 | ( | 680 | + | +0)   |
| 18 | 南足柄 | 1 | 737  | ( | 735 | + | +2)   | 72  | 藤沢   | 1 | 707 | ( | 704 | + | +3)   |
| 19 | 南足柄 | 2 | 481  | ( | 454 | + | +27)  | 73  | 藤沢   | 2 | 717 | ( | 714 | + | +3)   |
| 20 | 南足柄 | 3 | 534  | ( | 524 | + | +10)  | 74  | 藤沢   | 3 | 754 | ( | 754 | + | +0)   |
| 21 | 開成  |   | 282  | ( | 281 | + | +1)   | 75  | 江の島  |   | 560 | ( | 454 | + | +106) |
| 22 | 松田  |   | 610  | ( | 603 | + | +7)   | 76  | 多摩   |   | 745 | ( | 734 | + | +11)  |
| 23 | 大井  |   | 760  | ( | 760 | + | +0)   | 77  | 高津   |   | 616 | ( | 615 | + | +1)   |
| 24 | 中井  |   | 782  | ( | 781 | + | +1)   | 78  | 中原   |   | 479 | ( | 479 | + | +0)   |
| 25 | 箱根  | 1 | 625  | ( | 581 | + | +44)  | 79  | 幸    |   | 414 | ( | 414 | + | +0)   |
| 26 | 箱根  | 2 | 537  | ( | 534 | + | +3)   | 80  | 川崎   |   | 247 | ( | 247 | + | +0)   |
| 27 | 箱根  | 3 | 3    | ( | 3   | + | +0)   | 81  | 緑    | 1 | 886 | ( | 880 | + | +6)   |
| 28 | 箱根  | 4 | 531  | ( | 477 | + | +54)  | 82  | 緑    | 2 | 691 | ( | 691 | + | +0)   |
| 29 | 箱根  | 5 | 538  | ( | 481 | + | +57)  | 83  | 港北   |   | 579 | ( | 574 | + | +5)   |
| 30 | 箱根  | 6 | 455  | ( | 449 | + | +6)   | 84  | 神奈川  |   | 620 | ( | 617 | + | +3)   |
| 31 | 湯河原 | 1 | 498  | ( | 163 | + | +335) | 85  | 鶴見   |   | 672 | ( | 668 | + | +4)   |
| 32 | 湯河原 | 2 | 661  | ( | 653 | + | +8)   | 86  | 瀬谷   |   | 517 | ( | 515 | + | +2)   |
| 33 | 真鶴  |   | 840  | ( | 629 | + | +211) | 87  | 旭    |   | 683 | ( | 662 | + | +21)  |
| 34 | 小田原 | 1 | 456  | ( | 456 | + | +0)   | 88  | 保土ヶ谷 |   | 764 | ( | 758 | + | +6)   |
| 35 | 小田原 | 2 | 298  | ( | 263 | + | +35)  | 89  | 戸塚   | 1 | 613 | ( | 581 | + | +32)  |
| 36 | 小田原 | 3 | 773  | ( | 767 | + | +6)   | 90  | 戸塚   | 2 | 604 | ( | 598 | + | +6)   |
| 37 | 小田原 | 4 | 543  | ( | 536 | + | +7)   | 91  | 戸塚   | 3 | 581 | ( | 578 | + | +3)   |
| 38 | 清川  | 1 | 359  | ( | 356 | + | +3)   | 92  | 西    |   | 413 | ( | 413 | + | +0)   |
| 39 | 清川  | 2 | 552  | ( | 501 | + | +51)  | 93  | 南    |   | 525 | ( | 512 | + | +13)  |
| 40 | 清川  | 3 | 664  | ( | 664 | + | +0)   | 94  | 中    |   | 523 | ( | 518 | + | +5)   |
| 41 | 愛川  |   | 1027 | ( | 964 | + | +63)  | 95  | 港南   |   | 554 | ( | 553 | + | +1)   |
| 42 | 相模原 | 1 | 643  | ( | 624 | + | +19)  | 96  | 磯子   |   | 587 | ( | 582 | + | +5)   |
| 43 | 相模原 | 2 | 534  | ( | 499 | + | +35)  | 97  | 金沢   |   | 796 | ( | 780 | + | +16)  |
| 44 | 相模原 | 3 | 428  | ( | 428 | + | +0)   | 98  | 鎌倉   | 1 | 694 | ( | 668 | + | +26)  |
| 45 | 相模原 | 4 | 543  | ( | 540 | + | +3)   | 99  | 鎌倉   | 2 | 698 | ( | 693 | + | +5)   |
| 46 | 厚木  | 1 | 883  | ( | 841 | + | +42)  | 100 | 逗子   |   | 837 | ( | 786 | + | +51)  |
| 47 | 厚木  | 2 | 492  | ( | 466 | + | +26)  | 101 | 葉山   |   | 680 | ( | 650 | + | +30)  |
| 48 | 厚木  | 3 | 609  | ( | 519 | + | +90)  | 102 | 横須賀  | 1 | 760 | ( | 739 | + | +21)  |
| 49 | 厚木  | 4 | 661  | ( | 657 | + | +4)   | 103 | 横須賀  | 2 | 646 | ( | 639 | + | +7)   |
| 50 | 厚木  | 5 | 689  | ( | 688 | + | +1)   | 104 | 横須賀  | 3 | 629 | ( | 622 | + | +7)   |
| 51 | 座間  |   | 871  | ( | 857 | + | +14)  | 105 | 横須賀  | 4 | 760 | ( | 745 | + | +15)  |
| 52 | 大和  |   | 785  | ( | 784 | + | +1)   | 106 | 横須賀  | 5 | 679 | ( | 673 | + | +6)   |
| 53 | 海老名 |   | 851  | ( | 843 | + | +8)   | 107 | 三浦   |   | 759 | ( | 751 | + | +8)   |
| 54 | 綾瀬  |   | 692  | ( | 688 | + | +4)   | 108 | 城ヶ島  |   | 369 | ( | 367 | + | +2)   |

●事務局より

まだ植物誌出版の予算の見込みが立たない状況ですが、最悪の場合はオフセット印刷でもと、考えております。現在のところ、1986年春に50-100ページ位の、見本誌を1発行し、体裁、内容などに検討を加えたい、1987年春に、神奈川県植物誌の発行にこぎ着けたい、考えです。1986年度はこれまでに、神奈川県から記録がありながら、今回の調査に漏れている種類を重点的

に取り調べたいと思います。また、まだ調査が不十分な地区も、重点的に調査する予定です。どこのメッシュが調査不足であるかは、上の一覧表でおおよそわかるかとおもいます。

『神奈川の春はどこからくるか』の調査も、方法を更に検討して、再度行う予定でおります。

本号の編集は県央ブロックの諏訪先生にお願いしました。